

県老連『輪投げ大会』ルール

一般財団法人 群馬県老人クラブ連合会

(平成27年6月11日一部改正)

(平成28年2月23日一部改正)

(平成28年6月27日補足追記)

(平成31年2月26日一部改正)

1. 競技方法

- ①競技は団体戦とする。
- ②2ゲームを行い、チームの総得点で順位を競う。

2. チーム編成について

- ①1チーム 5～7名（競技者5名、補欠0～2名）とする。ただし、男女混成チームとする。
 - *競技者5名には、男性及び女性をいずれも1名以上入れた編成とする。
 - *競技の途中で、都合により競技者が男性だけまたは女性だけとなってしまった場合は、その時点でチームとして棄権となる。
- ②ゲーム内での選手の交代は、認めない。

3. 「輪投げのルール」

- ①セット数（輪9個で1セット）
 - *1ゲームのセット数……2セットとする。
- ②距離
 - *投輪（とうりん）ラインと得点台との距離…5mとする。
- ③競技者一人が9個の輪を投げる持ち時間は1分とする。
 - *1分以内に9個の輪を続けて投げる。
- ④競技者は投輪ラインを踏んではいけない。
- ⑤競技者は投げた輪が止まらない間に次の輪を投げたり、投輪ラインの前に出てはいけない。
- ⑥得点基準
 - *得点台のピンに表示されている数字を得点とする。

- *同じピンに複数入ったときは、加算方式をとる。例えば5点に輪が3個入ったときは、 5×3 で15点と記入する。
- *得点台のピンに「入っていた輪」が次投以降の「輪」によって「ピンから外れてしまった場合」は、「入っているもの」として得点を計算する。
- *得点台のピンに「入っていない輪」が次投以降の「輪」によって「ピンに入った場合」は、得点に加えない。
- *投輪された輪が床や床上に落ちた輪等に触れた場合は、無効な輪とする。
- *投輪された輪がピンに直接は入らず、得点台や他のピンに弾んでから入った場合は、得点を認める。
- *競技中の疑義については、『国際輪投げ協会公式ルール』に準拠し、大会本部にて協議する。

4. ゲームの進め方

各チームの代表者を中心に、下記を参考に自主運営する

- ①競技開始前に各組（輪投げ台）毎に審判及び記録員は集まり、審判長を決める。
- ②各輪投げ台の審判及び記録員は、競技するチームの次の次に競技するチームが行う。
- ③チーム内の競技者の輪を投げる順番は提出された名簿順とする。
- ④競技者は、輪（9個）を持って投輪ラインの手前に立つ。
- ⑤審判は投輪ラインの近く、記録員は輪投げ台の近くに配置。【競技者の競技を妨げないように配慮する】
- ⑥審判の指示により、輪投げをスタートする。
 - *片手に9個の輪を持ち、片手で1個ずつ目標のピンに向かって輪を投げる。
- ⑦9個投げ終わったら、記録員は、先ずピンに入らなかった輪を集め、次にピンに入った輪の得点を数えて、審判の確認・報告を受け、得点記録用紙に記録する。
- ⑧得点が決まったら、審判は残っている輪を集め、投輪ラインに待機している次の競技者へ渡す。
- ⑨競技者5人が投げ終わったら1セット終了で、次の競技チームと交代する。
- ⑩競技者全員が2セット終了したら、競技は終了とする。
- ⑪組合せは予め事務局で作成する。

使用コート、競技台及び競技順についてはローテーションとし、予め事務局が作成する。

⑫本部は競技が円滑に進行するよう必要な指示を行う。

【審判の主な仕事】

- * 競技のスタート、終りの確認・宣言する。
- * 競技者が決められたルールどおり競技を進めているか見ている。違反者が出た場合は注意してやり直しをさせる。
- * 競技者の得点を確認する。
- * 失格となるような大きな違反が出た場合は、当該組（輪投げ台）の審判が集まり、状況を報告し、審判長の指示を仰ぐ。
- * 競技が終了したら、審判長は当該組（輪投げ台）の各チームの得点をまとめ本部に伝える。

【記録員の主な仕事】

- * 輪投げ台の近くにおり、ピンに入らなかった輪を集め、審判から報告のあった得点を「得点記録用紙」に記録する。

【主将の主な仕事】

- * 競技の速やかな進行管理を行い、競技者の変更等は速やかに審判に連絡し、記録用紙の競技者名を訂正するよう報告する。

以 上